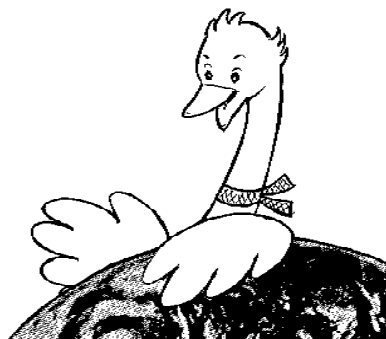


快適地球のつくりかた

いつもロハスで… 13



生態系をどう守るの
「キャナル君、今朝ラジオで聞いたんだけど、日本が外来生物に侵略されているんですって！侵略的外来生物って何なの？もしかして宇宙人とか…？」出会うなりネコおばさんは真顔でいった。「宇宙人!?!いやいや…外来生物というのは、帰化生物といわれていて外国から日本へ入って来た生物のことだよ。でも外来移入生物のことをエイリアン・スピーシーズと言うから、宇宙人というのは案外近いかも。外来生物の中でも地域の自然環境に大きな影響を与えて、その土地に元からいた生き物をおびやかすものを、特に侵略的外来生物というんだ。たとえば沖縄本島や奄美大島にハブ退治のために持ち込まれたマングース、小笠原諸島に持ち込まれたグリーンアノールというトカゲがいるよ。グリーンアノールは昆虫などを食べるので、小笠原固有の昆虫が食べ荒らされて、もう既に絶滅してしまったかもしれない種類もいるんだ。移入生物自身には別に“侵略的”な意図はなく、本来の生息地ではごく普通に生活していたのに人間によって連れてこられ、たまたま辿り着いた土地が繁殖条件に合っていたため、大きな影響を与えたんだ。また日本ではごく普通に湖沼

にいる鯉や

土手などに生えている葛も、今では本来生息していなかったアメリカで、異常に繁殖して“侵略的”な外来生物になっているんだよ。」「まあ、鯉が侵略的だなんて。…外国からやってきたというと、ハクチョウやツバメやサケやウミガメなんかも外来生物ってこと？」とおばさんがいう。「う～ん、それはちょっと違うんだ。渡り鳥や海流によってやってくる生き物や植物の種は、自然の力で移動するものなので外来生物とは言わないんだ。大昔から日本列島には北や南から渡り鳥やら、アザラシやら来てるからね。たとえば多摩川にタマちゃんが住み着いたって外来生物とはいわないんだよ。」「タマちゃん！可愛かったわね。…その侵略的外来生物っていうと…最近有名になったのに、上野の不忍池のカミツキガメっていたわね。」という。ぼくは「うん、古くはミドリガメ(ミシシippiacamigame)、ブラックバス(オオクチバス)、マングース、アライグマ、ヌートリア等もいるよ。日本生態学会が2002年に日本の『侵略的外来種ワースト100』を定めて発表したんだ。すべて人間がペットや毛皮や食料として飼いはじめ、様々な理由で放たれたり逃げたりして帰化した動物たちだ。ワースト100なんてリストアップされたけど、彼らに罪はないよね。外来生物はなぜそれほど問題なのかというと、生物多様性条約では、守られるべき種や生態系や遺伝子それぞれ

れに重大な脅威を与え、生物の多様性を危機にさらすとされてるからなんだよ。」「生物多様性条約？」「1992年、生物の多様性を生態系、種、遺伝子の3つのレベルでとらえて、生物多様性を守り、生態系を維持して、遺伝資源を世界中で公平に利用しようとする国際条約なんだ。砂漠や湿地・海辺・山などの自然環境は、気候条件の違いによって動植物の組み合わせが異なるから、それら生態系を自然のままとりとして守ること。動植物は多くの種で構成されているけれど、減らさないよう現在の数を守ること。そして生き物の数が減って少なくなると遺伝子の組み合わせが均一になって、その種の崩壊につながるため、遺伝的な多様性を保持すること。生物多様性は人間の生存を支え、人類に様々な恵みをもたらすと考えられているんだ。生物に国境はないし、日本だけで生物多様性を保存しても十分じゃないよ。世界全体でこの問題に取り組むことが重要なんだ。生物多様性条約には“生態系、生息地もしくは種を脅かす外来種の導入を防止し、またはそのような外来種を制御し、もしくは撲滅すること”と記されていて、それらを守ることが結局は人類を守ることなんだ。」「人間だけが地球の全生命を守る、あるいは壊すこともできるわけね。人間の責任って重いわね。」とおばさんはいった。 つづく

